

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-83C	21-005	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
Alcohol consumption and breast cancer risk in Japan: A pooled analysis of eight population-based cohort studies 日本におけるアルコール摂取と乳がんリスク：8つの大規模コホート研究のプール解析		
執筆者		
Iwase M, Matsuo K, Koyanagi YNY, Ito H, Tamakoshi A, Wang C, Utada M, et al,		
掲載誌		
Int J Cancer. 2021 Jun 1;148(11):2736-2747. doi: 10.1002/ijc.33478.		
キーワード	PMID	
アルコール、乳がん、コホート研究、プール解析	33497475	
要 旨		
<p>目的： ヨーロッパの研究では飲酒が乳がん発症率を高めることが報告されているが、アジアにおける飲酒と乳がんの関連を示す証拠は不十分である。日本における大規模前向きコホート研究 8 件のプール解析を行い、ベースラインおよび乳がん診断時の閉経状態に基づいて分類した飲酒頻度と量と、乳がんリスクの関連を評価した。</p> <p>方法： 対象は計 158,164 人の女性であり、8 コホートの各飲酒習慣のアンケート調査結果から、飲酒の頻度は「現在非飲酒」、「機会飲酒（月 1-3 日又は週 1 日以下）」、「ときどき（週 1 日以上 4 日以下）」、「ほとんど毎日（週 5 日以上）」、量は 1 日飲酒量で「0g」、「0-11.5g」、「11.5-23g」、「23g 以上」に分類した。Cox 比例ハザードモデルを用いて、飲酒頻度および飲酒量に関連する乳がん発症率についてハザード比（HR）および 95%信頼区間（95%CI）をそれぞれのコホートで算出し、ランダム効果モデルを用いて統合した。</p> <p>結果： 2,369,252 人年の追跡期間中に 2,208 人が乳がん罹患した。ベースライン時の閉経状態に基づいて分類した閉経前女性において、飲酒頻度では現在非飲酒群と比較してほとんど毎日飲酒群は HR (95%CI) が 1.37(1.04-1.81)(傾向性 P=0.017)であった。飲酒量では 1 日摂取量が 0g 群と比較して 23g 以上群は HR(95%CI) 1.74(1.25-2.43) (傾向性 P=0.041)であった。乳がん診断時に閉経前であった女性では、1 日摂取量が 23g/日以上群は非飲酒者に比べて HR(95%CI) が 1.89(1.04-3.43) (傾向性 P = 0.032) であり、乳がん発生リスクが高かった。一方、ベースライン時または診断時に閉経後であった女性においては、飲酒頻度・飲酒量ともに乳がんリスクとの有意な関連は認められなかった。</p> <p>結論： 日本人では海外の結果と異なり閉経状態によって飲酒と乳がんリスクの関連に乖離がみられたことから、さらなるアジア人の大規模調査が望まれる。</p>		